令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果･課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

(1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

(2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

(3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

(4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1　全国学力・学習状況調査

学年		生徒数（人）	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
実施月日			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3　年	学校	77	64	45	36	4.0	11.2	8.0
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2　中学生チャレンジテスト

学年		生徒数（人）	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3　年	学校	79	57.7	50.3	44.8	44.5	47.1	12.3	3.6	12.6	9.5	8.7
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
9月5日	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5

※　3年生の理科はC問題を選択

令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

○令和5年度　全国学力・学習状況調査　結果より

【成果と課題】

〔国語〕

平均正答率は64％で、大阪府に対して4％、全国に対しては5．8％下回る結果となった。問題別に分析してみると、大阪府の正答率を上回った問題が3問あった。分野・領域上の傾向は見られず、いずれも選択式の問いであるというのが共通点であった。一方で、大阪府平均を大きく下回ったのが、文脈に即して正しい漢字を答える問い、古文で歴史的仮名遣いを直す問い、提示された資料を読んで表現の工夫について記述する問いの3問であった。単純な知識不足でもあるが、身に付けた知識・技能を正しく選択・活用する能力、文章の要旨や筆者の意図をくみ取って表現する能力に課題があることが分かる。また、ある程度の知識は身に付けているつもりがうろ覚えになっていたり、適切に活用できていなかったりと、定着にまで至っていないのが実情であると分析できる。

〔数学〕

本学年は特に関数分野の平均点を向上させることを目標に指導してきた。しかし、結果的には関数分野の平均点は10ポイント近く大阪府の平均から下がっている。一方で、図形分野とデータの活用分野に関しては、平均点から5ポイント以内の差となっている。関数分野の基本的な問いに対する正答率が15ポイント近く府の平均から下回っていることが一因であると考えられる。一年生時に学習した反比例の内容である。このときの習熟度でいえば定期テストの点を見ても多くが理解できていた内容だと思うが、復習の機会を適宜設けられていなかった。図形とデータの活用分野は、内容自体が少ないため、復習は容易であることから、差の開きが少なかったのではないか。

〔英語〕

本校の平均正答率は36%であり、全国平均45.6%を大きく下回っていた。
領域別に見ると、「聞くこと」では、正答率が全国平均を上回る、また同程度の
問題もあったが、「読むこと」「書くこと」ではいずれも平均正答率を下回っていた。また、記述式、短答式の問題で、条件を満たさない回答や無回答が多かった。
生徒質問紙では、「英語の勉強が好き」「英語の授業がよくわかる」と答える生徒の割合が全国平均よりも高く、英語学習への関心は高いと思われる。

【今後に向けて】

〔国語〕

漢字や語句、ことわざ・慣用句、古語や歴史的仮名遣いの直し方といった基本的な知識については、練習プリントや小テストなどで繰り返し学習し、しっかりと定着させていく。また、複数の資料を関連付けながら、根拠をもとに自分の考えを形成し、表現するといった学習を、これまで以上に積極的に授業に取り入れていきたい。

〔数学〕

授業内で、1・2年生の範囲の復習を取り入れていく。そのノウハウを学校の数学科教員と共有して、3年間を見通した授業計画に取り入れる。また、スパイラル学習を強く意識しての授業作成にも取り組む。

〔英語〕

特に「書くこと」についての指導を重点的に取り組みたい。基本的な単語の習得や文法の理解を深め、短答式問題での正答率を上げる。また、普段の授業で自分の考えを英語で表現する機会を多く持つ。その際「条件を満たす回答方法」「英作文で使える表現」などにも習熟させ、論理的でまとまりのある英語の文章を書けるように、より丁寧な添削指導を行っていきたい。

○令和5年度　3年生チャレンジテスト　結果より
【成果と課題】
〔国語〕
平均点は大阪府と比較して4．4ポイント下回っていた。しかし、33設問中、府の正答率を上回った問いも8問あり、特に手紙の書き方や敬語の扱い方など実用的な技能に関する設問で成果を見せることができた。
　また、無解答率を見ても全体の半分以上で府平均を下回っており、テストにおいて最後まであきらめずに臨む姿勢がしっかりと身についていることが分かる。
〔社会〕
平均点は大阪府と比較して、4.4ポイント下回った。観点別では、知識・技能が－3.8、思考・判断・表現－0.7、問題形式別では、選択式が－2.9、短答式が－1.4、記述式が－0.1であった。
日々の授業で、資料から考える問題、自分の言葉で説明する問題に取り組むようにしているので、思考・判断・表現の観点や記述式の問題の正答率が、比較的大阪府平均に近かったことが成果としてあげられる。1つ1つの問題を見ても、表や資料を読み取る問題については、大阪府平均を上回る正答率のものがあった。
〔数学〕
大阪府の平均が52.2点、本校の平均は44.8点でマイナス7.4ポイントとなった。各領域の平均点の大阪府との比較は以下の表である。
「数と式」は-1ポイント、「図形」は-2.6ポイント、「関数」は-1.7ポイント、「関数」は-2.1ポイントとそれぞれマイナスの結果となった。本年は目標として、「数と式」の分野で府の平均をこえることをあげていた。そこで28点の配点中1ポイントの差は、重点的に指導してきた成果だといえる。しかし、目標を達成できてはおらず、課題は残る。
一方で、前年度から「関数」分野におけるマイナスは広がっている。前年度の結果分析と成果から考えると、分野ごとに重点を置き授業を展開することで、その効果を十分に得られるということだといえる。記述式の問いに関する平均点は府の平均から見て上回っている。これに関しても授業内で、説明する場面を多く設定したことによる効果だと考える。
〔理科〕
「大阪府平均:47.6点・本校44.5点」という結果であり、大阪府の平均点から3.1点下回った結果となった。昨年度は一5.7点
今回の設問では、「エネルギー領域」で大阪府の平均を0.3点上回った。昨年度のチャレンジテストでも、大阪府の平均を上回っていることから、理解を深められている生徒が比較的多いものと考えられる。
反対に「物質領域」では、大阪府と比較して、本校の無回答率が高かった。このことから、今回出題された【質量パーセント濃度・密度】の考え方について、深く理解ができていない生徒が多いこと。何を答えてよいか、覚えるべき用語が定着していないことが読みとれる。
さらに、得点分布グラフを見ると、20～24点の層・45～49点の層と70～74点の層が多い。20点台、40点台の生徒に沿うような支援を考え、70点台の生徒を伸ばしていけるような指導を考えていく。
〔英語〕
・平均点は47.1点で、大阪府(54.2点)と比較して、　7.1点下回った。
・領域別にみると、「聞くこと」-1.2、「読むこと」-1.8、「書くこと」-4.1となっており、「書くこと」において最も平均が低い。
・「書くこと」及び「記述式」で答える問題で、正答率が府平均より特に低く、また無回答率が高くなっている。
・昨年度に比べ、「聞くこと」の領域では-1.8から-1.2と若干向上した。
・「聞くこと」「読むこと」の問題では、府平均より正答率が上回っている問題もあった。また、「思考判断表現」の問題のほうが、「知識技能」の問題よりも平均得点率が高かった。

【今後に向けて】
〔国語〕
本校の正答率を分析すると、大阪府の正答率を10ポイント以上下回っていた設問が8問あり、そのうちの6問は漢字や語句の知識に関するものであった。中でも漢字の読み書きにおいては6問中の3問で20ポイント以上の開きがあった。それが全体の平均点の差にも影響したとみられる。漢字の知識と語彙力については、日常的にさまざまな種類の文章に触れてきた経験の差が大きく表れやすい。高校入試に向けても、あらためて基礎的な知識・技能の復習を中心にした学力の底上げを図っていきたい。
〔社会〕
単純に知識を問う問題や、複数の知識を組み合わせて答える問題については、正答率が低かった。重要事項については繰り返し反復して覚える作業が必要であるが、社会科においては3年間の授業内容を消化するだけでかなり時間がぎりぎりなので、知識の定着のために十分な時間がとれていない。知識定着のためにいかに時間を確保するかが今後の課題である。
〔数学〕
分野ごとに平均点を上回れていないことから、やはりテストで得点するための授業の実施を強く意識する必要がある。つまり、家庭学習を促しつつも、演習の時間を授業内で多くとり、問題を解くことに慣れていくことを授業の主においていく。
〔理科〕
分野によって、生徒の興味関心や想像力の度合いに差が見られることが課題であるが、共通して生活に密接であること。ポイントを押さえて反復練習していけば、対応力も高まり、得点につながることを感じさせるよう継続して指導を続ける。
〔英語〕
・英語科においては、今後、特に「書くこと」についての指導を重点的に取り組みたい。基本的な単語の習得や文法の理解を深め、短い英文を確実に書けるように繰り返し反復練習を行っていく。

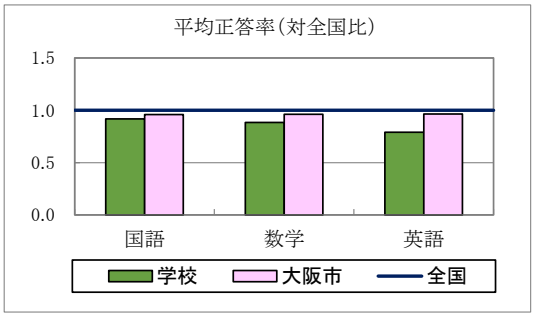
令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

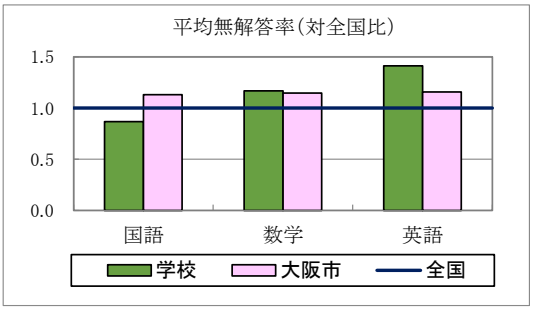
全国学力・学習状況調査　教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	64	45	36
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

平均無解答率(%)		
国語	数学	英語
4.0	11.2	8.0
5.2	11.0	6.6
4.6	9.6	5.7



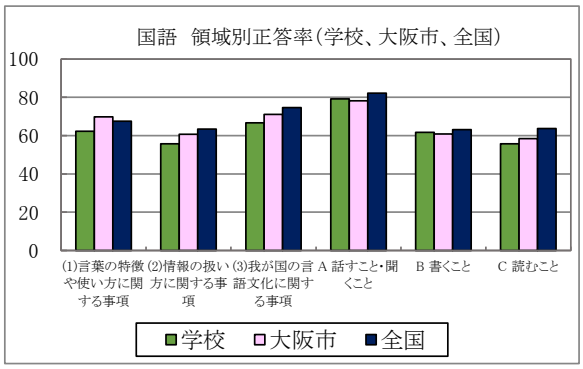


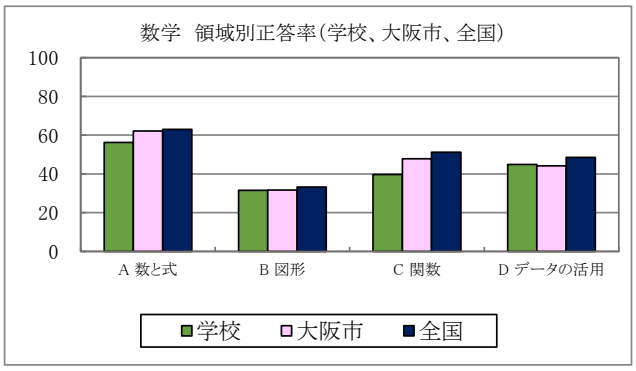
【 国 語 】

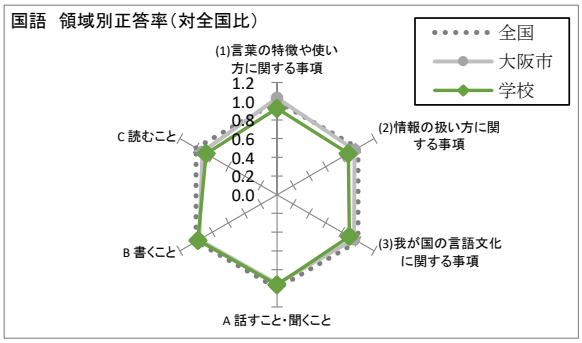
学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	62.3	69.8	67.5
(2)情報の扱い方に関する事項	2	55.8	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	3	66.7	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	79.2	78.2	82.2
B 書くこと	2	61.7	60.8	63.2
C 読むこと	4	55.8	58.5	63.7

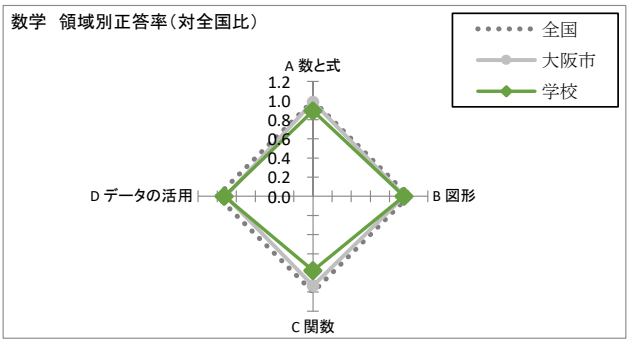
【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	56.2	62.1	63.0
B 図形	3	31.6	31.7	33.2
C 関数	4	39.7	47.8	51.2
D データの活用	3	44.9	44.2	48.5







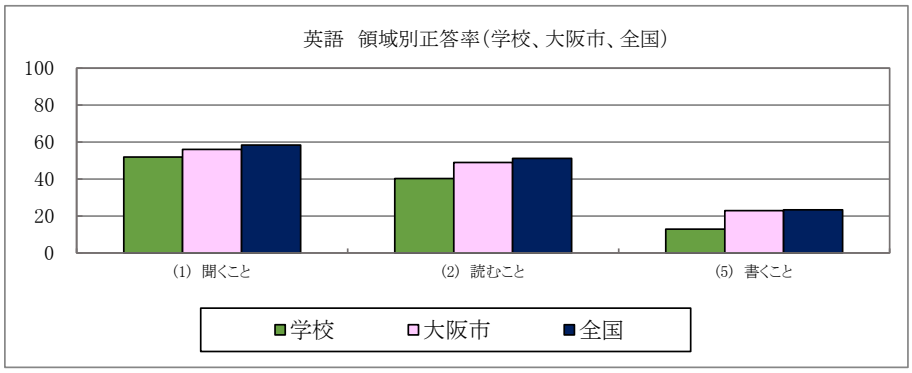


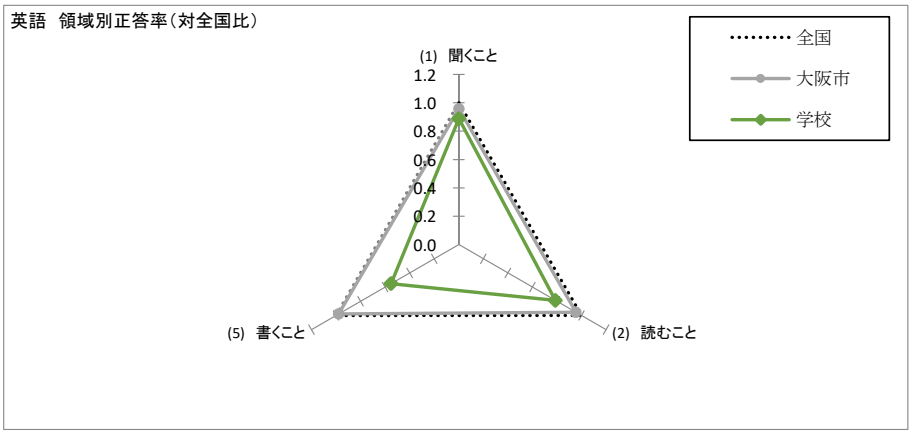
令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果･課題と今後の取組について―

全国学力・学習状況調査　教科に関する調査より

【英　語】

学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	51.9	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	40.3	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	12.9	22.9	23.4



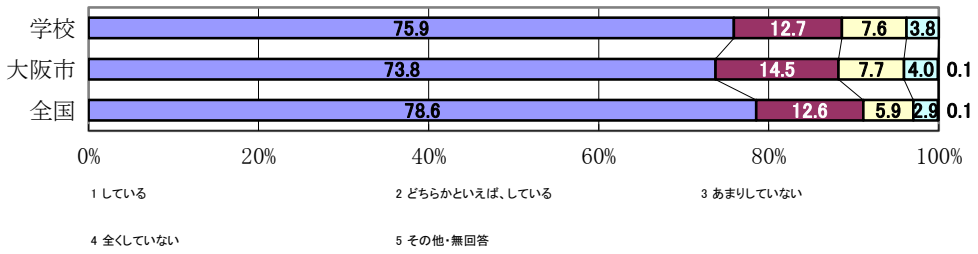


令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

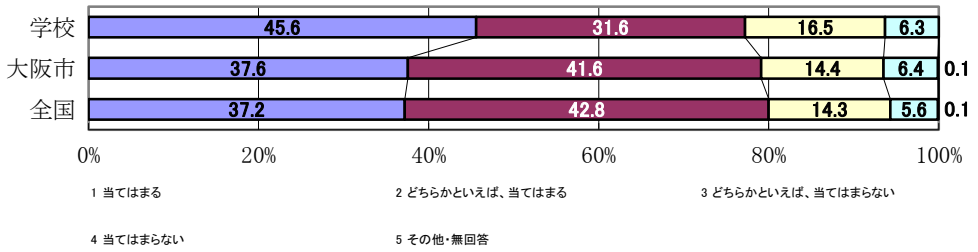
生徒質問紙より

■1　■2　□3　□4　□5　■6　■7　■8

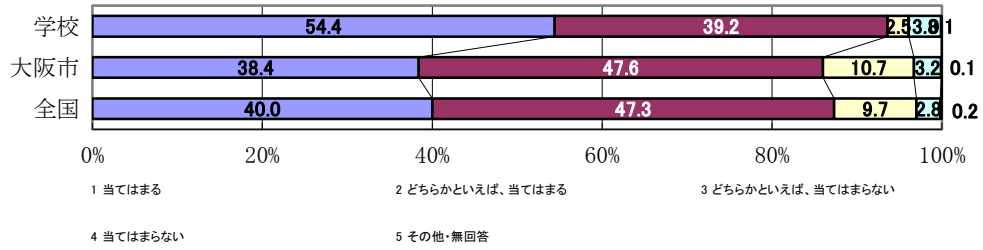
質問番号	質問事項
1	朝食を毎日食べている



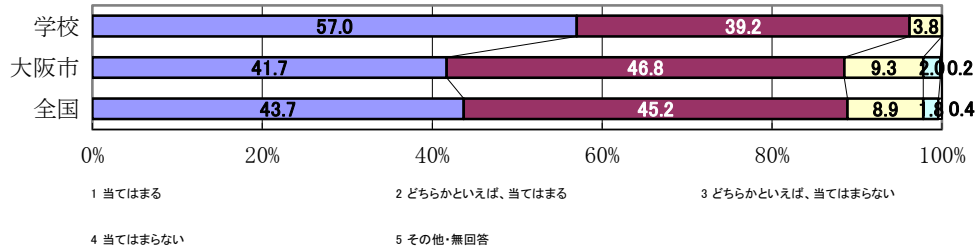
質問番号	質問事項
4	自分には、よいところがあると思う



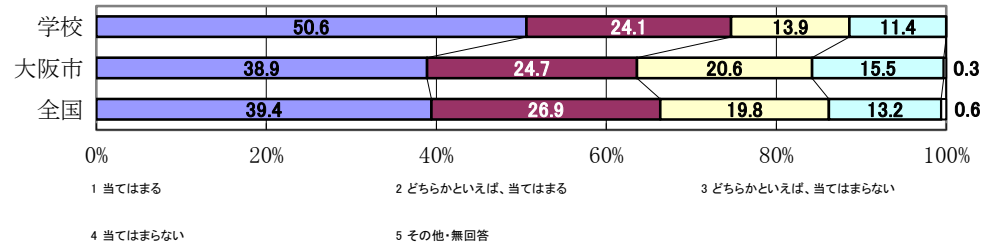
質問番号	質問事項
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



質問番号	質問事項
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う



質問番号	質問事項
7	将来の夢や目標をもっている



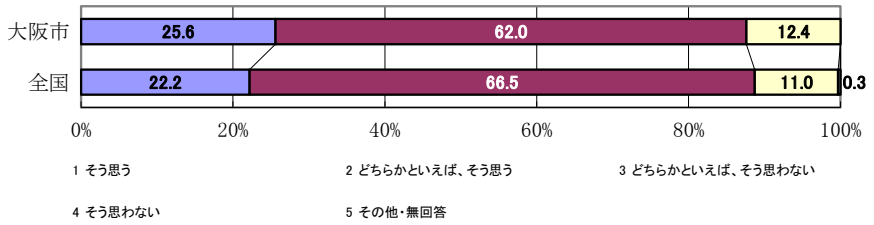
令和5年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

学校質問紙より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

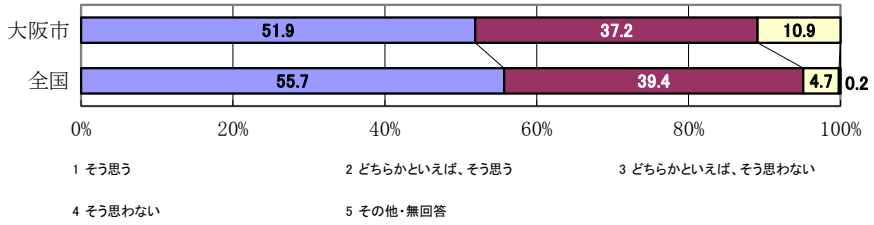
質問番号	質問事項
8	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強している

学校　「どちらかといえば、そう思わない」を選択



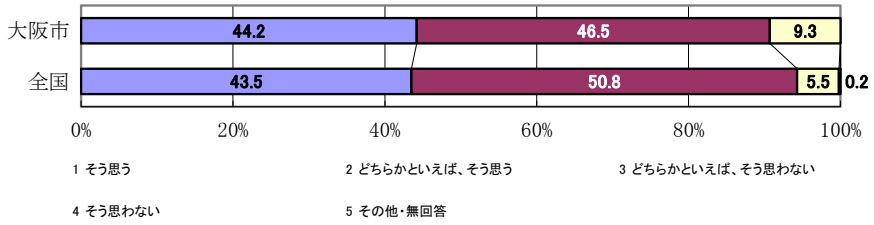
9	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

学校　「そう思う」を選択



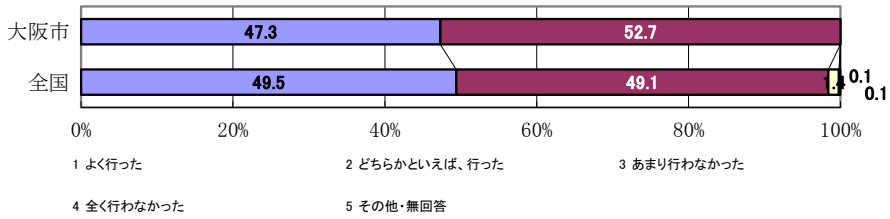
10	調査対象学年の生徒は、礼儀正しい

学校　「そう思う」を選択



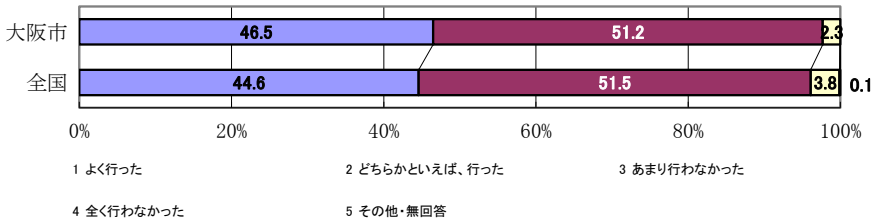
11	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校　「よく行った」を選択



12	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

学校　「よく行った」を選択

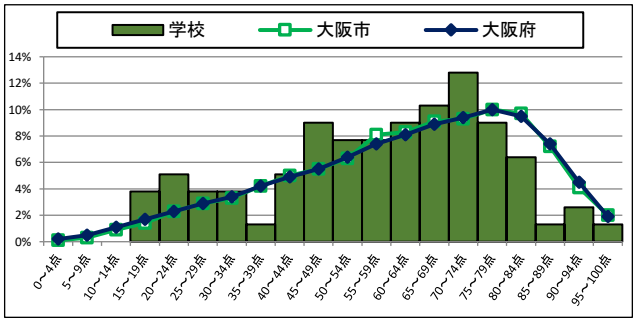


大阪市立東生野中学校　　令和5年度「中学生チャレンジテスト（3年生）」 検証用グラフ

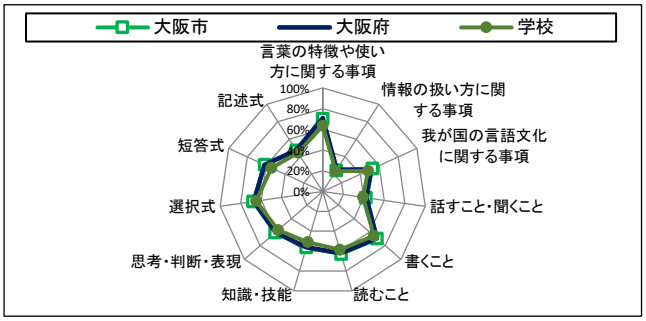
令和5年9月5日（火）実施

【　国　語　】

【得点分布】

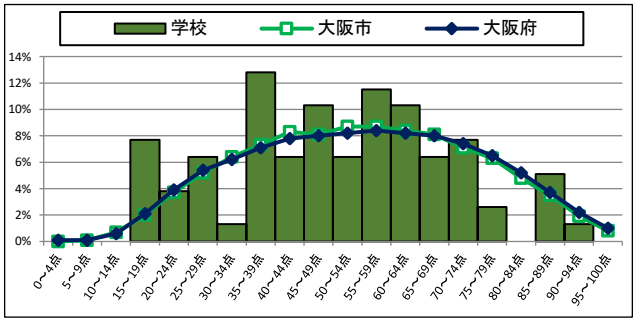


【領域・観点・問題別の分布】

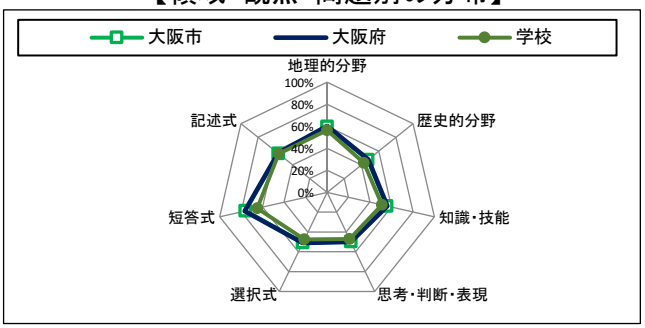


【　社　会　】

【得点分布】

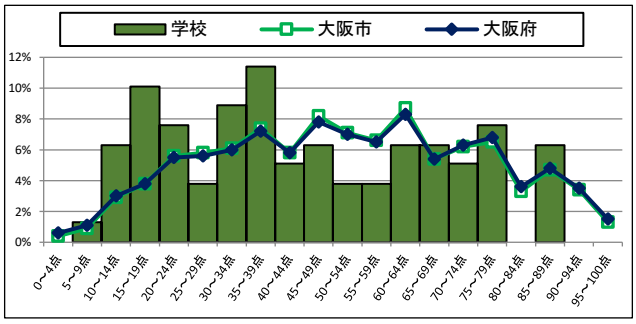


【領域・観点・問題別の分布】

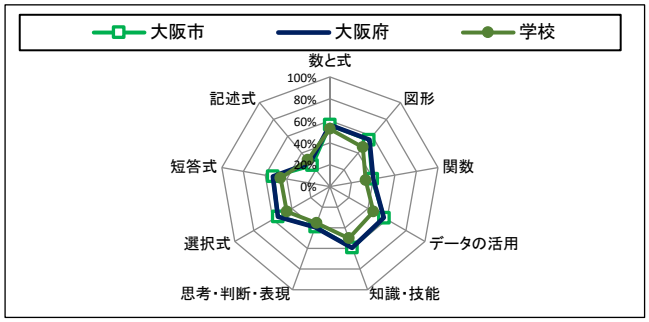


【　数　学　】

【得点分布】

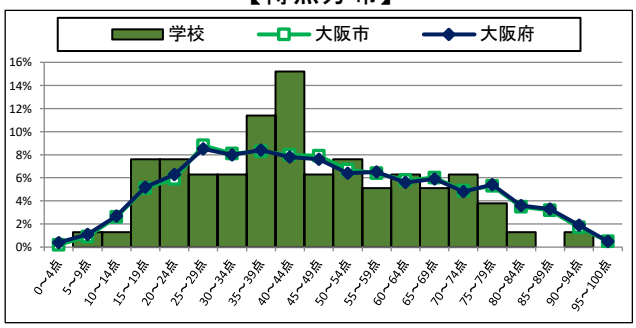


【領域・観点・問題別の分布】

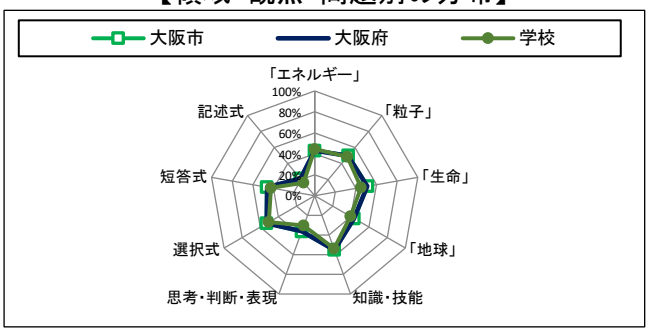


【　理　科　C　】

【得点分布】

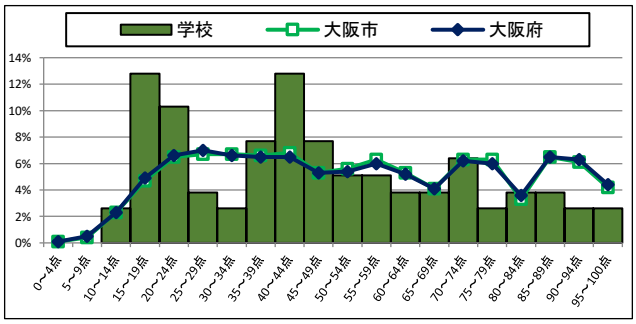
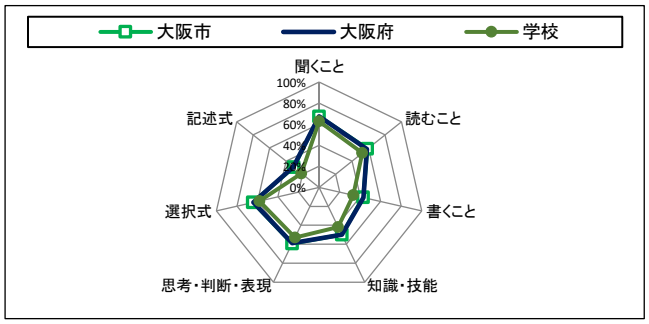


【領域・観点・問題別の分布】



【　英　語　】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】